

「あすなろ」便り

No.81

2011.10.11

発行:あすなろ

Tel: 046-254-2005



ひきこもりへの理解を深めるための連続セミナー特集号

第1回 齊藤環氏講演 9月3日



ひきこもりへの理解を深めるための連続セミナーの第1回として、精神科医齊藤環氏の講演が座間市青少年センターで行われました。

2010年内閣府の発表によると、全国で推計69万6千人のひきこもりの若者がいるとされています。齊藤先生は主に「社会的ひきこもり」について、その症状や対応について専門的に話をされました。印象的だったのは、家族の基本的な心構えとして、本人が安心してひきこまれる環境作りをすることであり、それには、両親が団結して本人の話をよく聞くこと・振り回されない距離感を持つこと、小遣いは決めてあげること等わかりやすい対応法でした。そしてなんとといっても、人間関係が一番の薬だから、状

態が少し良くなってきたら両親の友人知人と呼んで穏やかな会話を楽しむ事もコミュニケーションの回復になるという事でした。齊藤先生語録に「親は耳を貸しても、手は貸さない」とか「愛情より親切」「受容の枠組みを設定する」などありましたが、これはひきこもり家庭でなくても一般家庭に通じる言葉で、感銘を受けました。

第2回 岡本圭太氏&石原直之氏講演 9月10日

元ひきこもりのお二人の講演が座間市青少年会館にて行われました。岡本圭太氏は37歳、石原直之氏は47歳です。お二人はそれぞれにひきこもりから立ち直り働いているそうです。今回の講演は、過去のお話よりも、今の人生について熱く語ってもらうという内容でした。ジャンケンで話す順番を決めるなど明るい講座でした。彼らは確かにひきこもりから立ち直れたし、もうひきこもることはないけれど、自分の中に埋めようのない大きな空洞をもっているということでした。一方、異性との付き合いや、未来についての悩みや仕事についてなどの問題に直面しているようです。それはきっと元ひきこもりでなくとも、生きている限り誰でも抱える悩みなんだな～ と思いました。講演を聴いている親の皆さんは笑ったり、自分の子供からは聞くことも出来ない内容の話が聞けたりで、大変満足されたようでした。

第3回 就労にこだわらない生き方もあり！ 9月17日

生きていくための情報・経済的な問題について、座間市生活援護課(係長)内田さんと障害福祉課 亀田さんのお二人を講師としてお迎えし、より具体的な講座となりました。

頑張りや気合では直せない憂鬱な気分、意欲の減退、さまざまな身体的不調、不眠などの症状による就労困難、生活が苦しくなるとどうにもならなくなった時、まずは

①相談(福祉事務所地区担当委員・民生委員) ②申請 ③調査 ④決定 ⑤支給の流れで実行できます。中々相談につなげられないような時は、敷居を下げる工夫が必要であるようです。

本人が行けない・行かない時は家族が代わりに行き、対処方法などを相談する。同じ体験、同じ悩みを持つ人の話を聞く。一緒に同行するなどの方法もあるようです。

一人で解決するのが難しい問題ですが、家族、友人、専門家の力を借りることで、必ず解決できるのかな?自分であるいは家族など周囲の人々が問題に気づいた時、解決のための必要な手段を取ることが必要なのではと感じました。

第4回 ワンコインランチ・ランチ 10月2日

ひきこもりの当事者の会を発足させる試みとして行なわれましたが、申し込み15名に対し、実際に来られた方は、当事者の方1名と元当事者の方1名、親御さんが2名、支援者1名でした。元当事者の方と支援者の方がリードする形で座談会形式の集まりとなりました。あすなろのスタッフが作った、カレーとサラダを食べながら、和気あいあいと話が弾みました。親御さんが語るひきこもりの子の悩みに、元当事者の方と支援者の方がアドバイスをされていました。



結局、残念ながら当事者の会は発足しませんでした。当事者の方はあすなろが気に入って、通いたいということで、週1回通所されることになりました。